

平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホーム 今が一番館 西棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372101006		
法人名	特定非営利活動法人 今が一番館		
事業所名	グループホーム今が一番館 西棟		
所在地	岩手県滝沢市妻の神157-3		
自己評価作成日	平成 29 年 8 月 21 日	評価結果市町村受理日	平成30年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JiyosyoCd=0372101006-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29年 8 月 31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『今が一番、安心して下さい いつもあなたの傍に私があります』の介護理念に基づき、利用者が自由に生活し危険のないよう寄り添い安心して暮らせる環境にできるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービスを挟み東棟と西棟に分れており、東棟からは田園の風景が、西棟からは岩手山が眺望できる。ホームの入り口に「まちかど相談室」の幟を掲げ、他事業所との合同運営の認知症カフェや県立大学の実習生の受け入れ、認知症サポーター講座等を行っている。ケアマネジメントにセンター方式を取り入れ、利用者の日々の言葉や行動をメモにとり、生活記録にまとめ、本人の気持ちや意向を大切にしながら、日々支援に努めている。またレク委員会、危機管理委員会、広報委員会での職員の活動は、職員の持てる力の発揮となり、利用者への良質なサービス向上に繋がっている。施設長は、資格取得を評価していくシステム作りや、チャレンジプログラム等への自主的参加のきっかけづくりなどを今後計画していきたいとしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 今が一番館 西棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を食堂の見える所に貼り、全職員が理念を共有しケアに活かしている。	開所時の理念のもと、事業所の具体的な運営方針を全員で作成し、ホールに大きく掲げている。不安な歩行者や車椅子から立ち上がる人へさりげなく近づき、ゆったり一緒に過ごす思いに寄り添う支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の花植えや保育園児の訪問による交流をしている。 ボランティアによる映画の上映会。 敬老会に参加し地域との交流。	自治会に加入しており、敬老会や地域の祭りに参加するほか菓子駅の花植えをしている。事業所の秋祭りには地域の人を招待し、ボランティアの来所や保育園との交流もある。実習生の受け入れや認知症カフェや相談にも応じている。	周りに民家は少ないが、滝沢市内外での施設長の活動もあり、認知症の理解に向けての発信がなされている。認知症高齢者の増加に伴い、地域で支え合う仕組み作りに一層期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症まちかど相談室や認知症カフェへの参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加して頂いている地域の方や民生委員と家族さんより意見を頂き、ケアに活かしている。	利用者の状況や行事、サービスの取り組みの報告や活発な情報交換がある。利用者との食事会や、利用者家族を入れ替えながら認知症の正しい理解、普及に努めている。防災マップや避難訓練、花壇の花植え等の提案がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて実績を伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議のメンバーでもあり、市から「まちかど相談室」や「おれんじカフェ」、8月には市の行事「Lun伴2017」(利用者に参加した)の情報が有り、また事業所から提案や相談などで市へ出向く機会もあり、十分な連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加し、勉強会のテーマとして、職員全員で周知徹底して、身体拘束をしないケアをしている。	毎年外部研修へ参加するほか、内部研修では拘束に関する気づきについても話し合いをしている。日中は玄関、居室の窓は開錠している。「命令口調は使わない」「端的な説明をする」など声掛けにも工夫し、抑圧のない暮らしの支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、勉強会にて報告・虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や各自、パンフレットや情報にて勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長対応。不在時は職員対応。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や運営推進会議にて、家族と話をする機会に意見をしっかり受け止め行っている。	家族の面会時など機会あるごとに、話をよく聞き、必要に応じアンケートを実施している。夕方7時からの避難訓練や運営推進会議での流しそうめんの企画、猫の飼育は、家族の提案による。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会を毎月行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 レク委員会・危機管理委員会・広報委員会の委員会活動により、職員の持っている能力を発揮してもらっている。	レク、危機管理、広報委員会を設け、委員からはノロ対策や情報の写真化と棟内への掲示、3か月毎の広報の発送等様々な提案がある。管理者は、職員勉強会で意見を聞くほか、個別面談を行い私的な事も含め相談や要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理票を職員が各自で計画をたて、その実行、上司等からの評価により昇給の要件の一部にしている。資格取得者には手当の支給により評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や講習などに積極的に参加するよう促し、実行。資格取得。勉強会にて職員がテーマを決め、講師となり研究内容の発表を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知症高齢者グループホーム協会へ会員として加入している。 研修・定例会・大会などに参加させ、同業者との交流を促進している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、本人・家族からの話を聞き、センター方式を活用し、本人とのコミュニケーションの中から安心につなげるケアが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に訪問し、家族・本人と話をしている。 入所時には再確認し、ケアプラン作成後、家族へ同意を得る際に関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問マッサージの利用。 デイサービスの催し物への参加や、ボランティアによる上映会。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日の生活の流れを観察し、本人が出来る事は自分で行って頂き、出来ない部分是对応するなどし、危険・トラブルのないように見守りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人へ手紙を書き、友人とのやり取りがある。 友人の面会もある。 ドライブや買物などに出掛け、支援している。	ホームには家族の他、友人の来訪などもあり日常的に電話や手紙のやり取りがある。近くのスーパーや100円ショップ、敬老会で知人と挨拶を交わすこともある。誕生日には好物のラーメンを食べに網張へ行くなど馴染の継続に努めている。現在利用者個々の思い出アルバム作りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で食器拭きや、洗濯干しなどの手伝いをみんなで行い、利用者同士が関わり合えるよう、職員も介入して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅へ戻った後、併設のデイサービスを利用していたが、現在は別棟へ入所し関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの表情、行動の観察と希望・意向を聞き対応し、より良いケアにつなげている。	人事異動がない事が利用者の安心感となり毎日ゆったりと過ごす中で意向の把握に努めている。また利用者の発することばや行動をメモに書き留め生活記録に残し、特記事項についても職員間の連絡ノートで共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族と本人より話を聞き、入所前の生活などを聞く。 センター方式の活用。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック・体重測定などを行い、健康状態の把握。 一人ひとりのやりたい事や出来る事などを把握しケアにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて、ケアプランを作成。利用者一人ひとりの状態を把握し、話し合いを行っている。 家族の面会時には意見・要望を聞いている。	センター方式を活用して利用者一人ひとりの意向を把握し、生活記録を基に家族の意見も入れて全員でカンファレンスとモニタリングを行って介護計画を作成している。定期的に3か月ごとに計画見直しを行っているが変化が生じた場合は即時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録・連絡ノートの確認と毎朝の申し送りにて、利用者の状況を把握し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージ・ボランティアによる催し物。 一人ひとりの行きたい場所や好きな事の把握。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来所と地域のイベント・地域のお祭り・敬老会への参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が希望するかかりつけ医に対しては家族が対応し、状態変化が見られた際は、家族と連絡を取り対応している。協力医への通院は看護師が対応している。	今までのかかりつけ医としているが、ほとんどが協力医に変更し、受診時は看護師が同行している。今までのかかりつけ医受診者は家族に日常の情報を渡しており、結果は電話や毎月のお知らせで報告するなど情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の申し送りにて状態を報告し、必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設長・看護師が利用者の状態の変化を適宜把握できるよう、こまめにお見舞いを行い、その際に病院より内容や現状を教えていただき、退院後の施設ケア等の相談を行い、早期退院できるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・かかりつけ医・施設との話し合いを行い、家族の意向を確認し、方針を共有。終末期に関する同意書を作成し、家族からの同意を頂いている。	利用時に「重度化と看取りに関する指針」について説明し、理解を得ている。また「救急時の延命等はない」など緊急時同意書も看護師が説明している。看取りは過去にもあるが昨年は3名の看取り経験をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を定期的を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。定期的に災害伝言ダイヤルの訓練・危機管理委員会による非常食や、電灯等の必要物品の管理をしている。	防災マップの検討や7時からの夜間避難訓練を実施しており、灯りがないと足元が暗いなどの体験をしている。調理場と反対側に夫々車椅子にも対応したスロープを設置している。食料や水の備蓄もあり、暖房器具も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時、プライバシーを損なわないよう声掛けに気を付けている。 手伝い等をして頂いた時など、日々の感謝の言葉を伝えている。	「できなくなった思い」を受け止め利用者への声掛けや対応について職員同士日常的に確認している。抑圧的な言葉は使わない事や、トイレ誘導時の声掛けやトーンにも配慮するなど、利用者の誇りを尊重した支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日その時で声掛けの内容を変え、レク・行事への参加や入浴など、自己決定出来るように働き掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、利用者本位で考え、やりたい事があれば一緒に行くなど支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けにて、着る服を選んで頂いたり、起床時に整髪等を自由に整える場を支援。 月に2回、床屋さんに来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備・味付け・盛り付けを一緒に行ったり、食後の食器拭きや米研ぎなど、出来る事へ参加して頂いている。	畑は耕作から収穫まで利用者主導で行っている。利用者は買い物から食材の準備、味付け、後片付けまでできる範囲で参加している。食事への参加意欲が低い人には「そろそろ終わりましたか？」など働きかけの工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の申し送りにて確認。 一人ひとりの状態に応じた水分量や食事量・食事形態を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と食後の口腔ケアを必ず行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を見て、定時のトイレの声掛け誘導を行っている。日中は布パンツにパット、夜間はリハビリパンツ使用の状況に合わせた切替。夜間も声掛け誘導を行っている。	トイレでの排泄を基本に、高さの違う便器と後ろから介助ができる便器が設置されている。ほとんどは布パンツにパットの併用だが夜間は状況により、リハビリパンツを使用し、声掛け誘導をしている。布パンツへ改善した利用者には満足な表情が見られた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄時のチェックは毎日行い、個別に管理している。毎朝牛乳、昼食時はヨーグルトにて、食べ物での工夫を行っている。日中、歩行等を行い、体を動かして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日～3日に1度入浴。 希望があれば、その都度対応している。	入浴は、週2～3回だが希望により対応している。入浴中は歌ったり初めて聞く言葉があったり、2人で入浴する等楽しめる入浴となるよう支援している。入浴を拒む人は、タイミングを計ったり「準備したよ」と伝え強制にならないような配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたいと訴えがあった時や、一人ひとりの体調を見ながら休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の注意事項・効果などの確認。 体調の変化がみられた時は看護師へ報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の役割として、食器拭きや掃除などの手伝いを自ら参加して頂き、1日を過ごしている。 買物への同行や、ドライブなどで気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物への同行や季節ごとのドライブレクにて外出している。 家族さんの協力も頂き、外出する事もある。	日頃はベンチで外気浴や敷地内の散歩、近くの産直へ出かけている。1月は八幡宮へ初詣をしドライブで高松の池や八幡平、網張へ行き、桜や菜の花、カキツバタの見学、チャグチャグ馬ツコと利用者の希望も入れながら、日常的に外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方には、食材の買物時に同行してもらっている。 自分の好きな物を買ってもらっているが、必要以上と思われる時は声を掛け、買物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話の要望時は、やり取りが出来るよう、家族と話をし、了解を得て対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、雑誌・新聞があり自由に見る事が出来る。 花が好きな利用者には玄関に季節の花を飾って頂いている。	ホールは居間兼食堂、台所となっており、東棟からは田園が、西棟からは岩手山が眺望できる。天窗からの光と深みのある茶色の梁が落ち着いた解放感を与えている。廊下には行事の写真や詩の作品などあり、動線に沿った手摺など安全に過ごせる配慮と工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にて、個々に席が決まっているが、気の合った利用者同士で過ごせるよう、椅子の移動などを行い対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族との写真を飾っている。 本人が作ったパッチワークを飾っている方もいる。	入り口は、東棟は暖簾、西棟は布でくるんだペットボトルを挟みそれぞれに工夫している。 ストーブ、飾り付け用ボードの他ベッドは利用者に合わせて用意している。夫々使い慣れた椅子やタンス、電気スタンド等持ち込み、テレビを見る人、位牌に手を合わせる人、家族の写真を飾る人等、自分らしい居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事作りや掃除の手伝いをして頂いている。 個々に合った歩きやすい靴の検討も行って頂いている。		